

1. 芦屋川駅から高座の滝までの2ルート

集合は駅北の石畳小広場が最適だが人が多いのが玉にキズ

① 大声でおしゃべりする場合……川沿いの大衆コースがおすすめ。

駅北の小広場から北に行くと車道に出る。そのまま直進し、高座川を渡り少し行くと公園に出る。

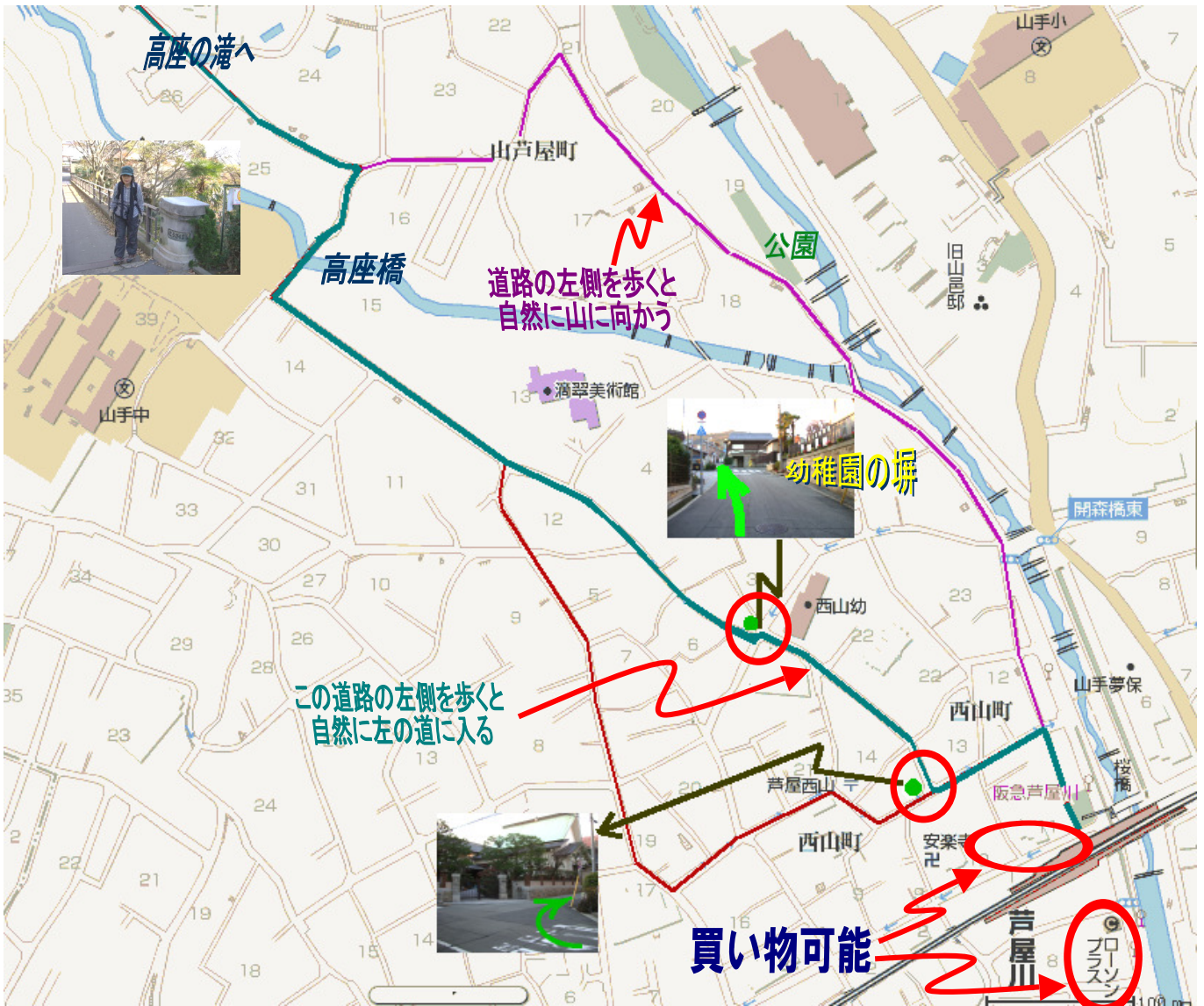
公園からはずーとのぼり道になる。道の左側を歩くと自然に山の方の道に入り、マンションの前で反転するように左折し、そのまま道沿いに行くと高座の滝に達する。

ミーティング場所：川沿いの公園

② 静かな上品な山行きの場合……例の住宅地コースがおすすめ。

駅北の小広場から北に行き、1つ目の道路を左に折れる。しばらく行くと写真のような大きな屋根の家（表札は小松）がある。一見、宗教施設にも見える。ここを右折し、道の左側を歩いていくと西山幼稚園の塀が切れるところで自然にやや細い道に入る。このまま直進すれば山手中学校の下に達する。突き当たり、右に曲がれば高座橋である。

ミーティング場所：高座橋



高座の滝の少し前に高座川を渡る大きな橋があるが、この橋は「大悲閣ホテル？」に渡る橋であるから、渡らずに直進する。滝まではすぐだ。茶店と公衆トイレが2ヶ所ある。（芦屋川駅から約30分）

2. 高座の滝から奥高座の滝へ

高座の滝からは階段である。最初は左に曲がるように登っていくと左に地獄谷の砂防堰堤が見える。ここでほとんど反転するように右に進路をとり、ずっと右を守っていくと高座谷の第一堰堤の左側に出る。谷では、上流から下流を眺めるようにして、右手側を右岸、左手側を左岸という。よって、谷を遡行するときは、左岸が右側、右岸が左側になるので注意しなければならない。



高座の滝の前



最初の階段



右に進路を取る



第一堰堤の右岸側に出る

第一堰堤を越えると上流側は完全に土砂で埋まっている。すぐに右岸道と左岸道が分かれるが、飛び石を渡る左岸の方が道がいい。川を渡り、ゆるく山道に入る。道は最初に登り谷より高い所にあるが、小さな滝の上流部で谷が道と同じ高さに追いつく。そこに飛び石があるので右岸に渡る。



道が分かれる



左岸に渡る



ゆるい登りの山道



左手に小さな滝が

第2堰堤までは、右岸を少し登ることになる。第2堰堤の上流も砂で埋まっている。堰堤を越えると飛び石で左岸に渡り山道に入る。このあたりの川原では猪に遭うことが多い。



第2堰堤



ここの堰堤も右岸で越える



土砂で埋まっている



左岸に渡り山道へ

左岸を行くと赤ペンキの岩が出てくる。このペンキに従って少しだけ山に登るが、すぐに谷筋を示すペンキと山道を示すペンキの両方が出てくる。ここでは谷筋に行く。谷筋を少し行くと自然と右岸に渡り登りとなり第3堰堤に着く。(山道を登った場合、左岸のまま、第3堰堤を高巻きするので堰堤をパスすることになる。)



左岸からは山道



キーとなる岩



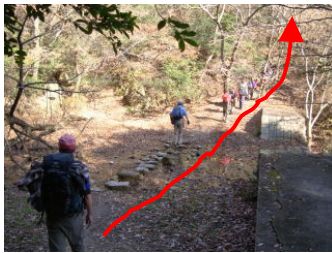
最後に右岸に渡り、登りになり第3堰堤に着く



第3堰堤

注意すべき岩は、岩だけではなく、風景、周辺の岩や木なども覚えておくことが大切である。

第3堰堤も上流が土砂で埋まっている。堰堤を越えすぐに左岸に渡り、堰堤の真上をしばらく登ると、水平道にぶつかる。この水平道を上流に向け歩くとすぐに荒地山砂防堰堤が現れる。堰堤の対岸側には大きな岩が乗っている。偶然にしても不思議だ。この堰堤の上流側は土砂がなく深くなっているが、次の堰堤が近くなると同時に谷底が道に迫いつき右岸に渡る。大きな石が踏み石のように並んでいる。



第3堰堤上流側



登ると水平道に出る



荒地山砂防堰堤



広場へは大きな岩を、跨ぐ

渡ったところに休憩にいい広場がある。上流側には2段の荒地山第2砂防堰堤がそびえている。手前のが副堰堤である。副堰堤に寄るのなら、赤線に示す中央の急登に行く。副堰堤の上流は峰の池と呼ばれ鯉がいるらしい。ゆっくり登るには広場の下流側の岩に、赤ペンキで方向が書いてある。指示どおり登ればよい。



休憩に恰好の広場



広場からの堰堤



副堰堤への登り



峰の池

副堰堤からさらに登ると荒地山第2堰堤である。堰堤のすぐ上流側に西から支谷が流れ込んでいる。この支谷を遡行するようなゆるく登る道が風吹岩に達する道である。堰堤から本流の方に急激に降りる道が奥高座の滝への道である。あぶないと書かれた看板の根元に「←オクコウザ」と書いてある。川原に下りよう。



奥高座の滝へは、堰堤から数mのところから本流側を下る。



こちらは風吹岩



荒地山第2堰堤上流側

土砂も池もない

赤ペンキに従い谷を遡ると大きな岩ばかりだ。ここから奥高座の滝までは左岸側を歩くように心がける。しばらく行くと赤ペンキの「Y」の字が現れる。右上方を見ると「↑」が、前水平方向を見ると「O」の赤ペンキがある。ここが重要なポイントである。ここより本流に従い「O」の方向に行くと「奥高座の滝」の標識が現れる。奥高座の滝はこの数分先だ。「↑」方向の支谷を登る道はキャスルウォールへ通じる道だ。



方向を示す赤ペンキ



キャスルウォール
奥高座の滝

O Y ↑



本流を遡行



奥高座の滝の標識

奥高座の滝までのルート図と実際の時間である。写真を撮りながらだから、ゆっくりペースとほぼ同じである。



奥高座の滝は左滝と右滝がある。左滝は水量が多いが高さは感じない。右滝は水量がないが高さはある。実は、左が本流で、右が荒地山直下からの支谷である。この辺りの岩は滑りやすいので注意が必要だ。右滝は見えるだけの高さであるが、左滝および両滝の間の岩はさらに上が壁になっているので要注意だ。

また、この谷には私設の標識が多い。荒地山へ行かそうとする色彩が強いので注意を要するが参考になる。また、この標識は目の高さ以上の場所にあるのでよく注意しないと見落としてしまう。

3. 奥高座の滝から展望岩まで

奥高座の滝から右岸を下流に向け戻り、なるべく川原でなく山側の道を進むと左から樋状の道が急な道が降りてきている。このやや急な道を登る。登ると水平道にぶつかる。そこに小さな道標がある。右がキャスル・ウォール、左が横池への道だ。キャスル・ウォールまでは 30 秒ほどの距離だから、眺めて見るのもよい。ただし、ロッククライミングの練習をしているので、上を見ての安全確認が必要だ。



溝状の道を登る



小さな道標だ



横池へは荒地山方向へ



キャスル・ウォール

キャスル・ウォールから水平道を引き返し、上流方向にやや登り、次いで少し下ると小さな谷に出る。「C4」と書いた白い標識がある。実はここが、「奥高座の滝」右滝の真上なのだ。この谷を10mほど下ると、滝の上部に出る。先ほどの「C4」の標識からすぐ先に3分岐の赤ペンキ岩が見える。この岩がポイントである。横池へは、単純にその表示の一番左方向に行けばよい。この右滝の谷を横切るように最初は急な登りである。が、すぐに終わる。次いで高さはあるが、本流に沿って上流に向けたゆるい下り坂になっている。視界が開けてきたら、左後方に先ほどのキャスル・ウォール、その先に大阪湾を望むことができる。



C4の標識のすぐ近くに3方向の赤ペンキ岩がある



狭い下り道



左後方キャスルウォール

しばらく行くと、また登りが始まる。トラロープの崖があるがロープにはなるべく頼らないで登る。すぐに小さな支沢に出る。谷の護岸の石垣を横切るとジグザク道になる。途中に「C5」の標識がある。なおも登ると道が緩やかになる。林の中を少し行くと右手に赤点ペンキの石が現れる。すぐ先は左の谷の方にガレている。よく捜すと、道の右側に「←荒地山」の標識もある。谷側には急であるが道がある。



ロープの小さな崖



支谷の石垣



C5の標識



最後はゆるい道になる



赤点ペンキ岩



左、谷川がガレ



見え難い[←荒地山]の標識



谷川に下る道

このあたりの標識の多くは荒地山方向を指している。時には間違いを起しやすい標識でもある。ここに設置してある標識も荒地山への分岐の標識ではなく。「荒地山へはさらに上流に向けて進め」というだけである。

このガレの下の本流には落差は小さいが風格のある滝がある。花崗岩の滑滝で水の流れたところが窪んでいるなど実に形がいい。左側のガレの急道を30秒ほど降りた本流の滝だ。水に濡れている岩は非常に滑り易いので注意が必要だ。この小さな滝の対岸に道が続いているが、滝を見たならここでは元の道に戻る。

ほぼ水平な道を上流に向かうと、途中倒木などがあるがさらに進むと谷が道の高さにまで追いついてくる。2方向の赤ペンキ岩がポイントの岩だ。岩の真上には標識[←雨ヶ峠・荒地山 荒地山(直登)→]がある。直登というのは、黒岩経由で直接荒地山へ至る道という意味であろう。



小さいながら風格のある滝



倒木があったりする



本流が登山道に追いつく



2方向の赤ペンキ岩

この分岐を左「雨ヶ峠」の方へ行くとすぐに、次の赤ペンキ岩のポイントに出る。このポイントも重要であるので見落とさないように注意を要する。このポイントには分散して標識がぶら下がっている。このポイントでは、荒地山の方ではなく、左「横池」の方へ行く。最初は水のある本流沿いに歩くがやがて、小さくなった本流の沢を越え登りにかかると稜線が近いことがわかる。さらに、来た方向を[←→奥高座]と示す標識があるので確認できる。この標識は五分岐から、奥高座への路を示すのが[←→奥高座]の標識である。



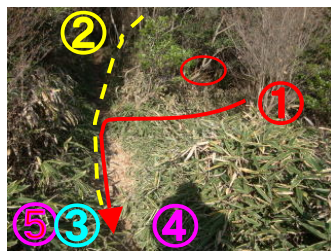
ポイントの岩。奥の特徴のある岩が方向の目印
(青丸がポイントの岩、黄丸の標識を捜すべし)



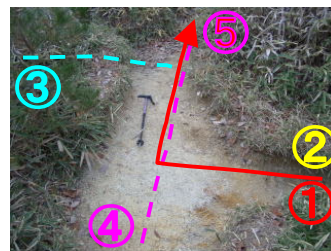
稜線が近くなったことがわかると奥高座の標識



五分岐から横池へ行くには、基本的にはこれまでの進行方向と同じ方向、つまりほぼ西方向に進めばよいが、まっすぐに行けないのが難点である。まず最初の丁字で数m左(南)へ移動すれば支尾根の丁字(稜線)に出る。この稜線を右(西)へ行くが、数mばかり進むと左(谷川)に分岐がある。これが、第2荒地山砂防堰堤に行く道である。ここは曲がらずにまっすぐ行くとすぐに[←横池・雨ヶ峠]の標識があり急な登りとなる。これを進むと魚屋道に出る。



最初の丁字



稜線の丁字

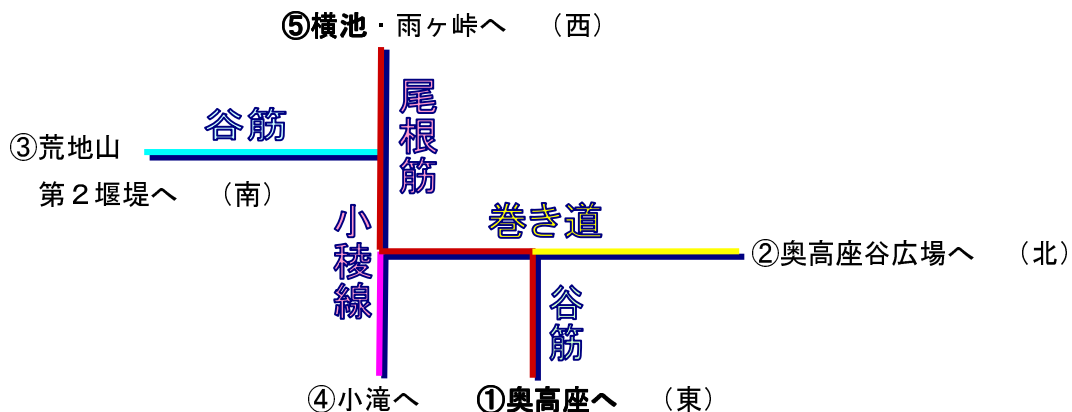


稜線の西から見た五分岐



五分岐から横池への標識

五分岐は間違えやすい場所であるが、道は次のようにつながっている。



稜線沿いであるが溝状の急な登りを少し行くと岩がある。この小さな岩も展望がやや良いが、この先の展望岩の方が優れている。

さらに急坂を登ると平坦になる。左に岩があり岩を巻くように道がある。これが展望岩への道である。30秒で展望岩に着く。六甲最高峰・東おたふく山・荒地山・大阪湾を望む絶好の岩である。



五分岐の様子



途中の岩



展望岩の分岐

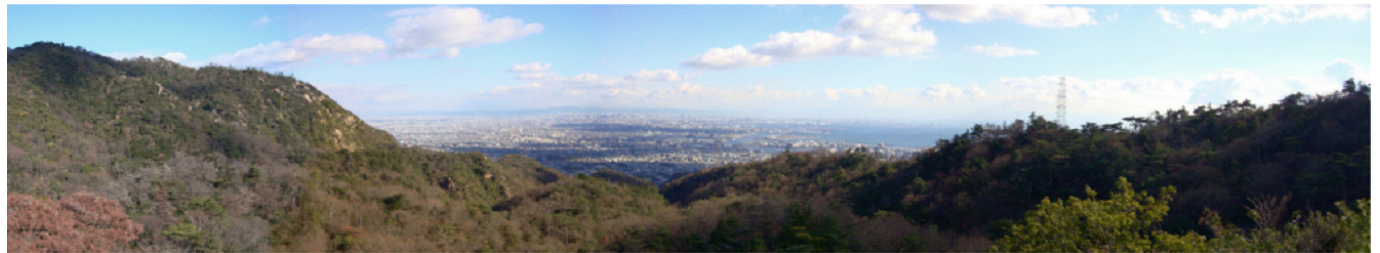


展望岩

市街地を望む風吹岩に対し、この岩からの展望は、山間部である。それだけに山深くに居る気がする。しかし、ここが横池のすぐ近くであるというところが非常に驚きである。秘境高座谷の一部であるこの岩は、やはりそっとしてやりたい気がする。



展望岩から（北西～北～東）



展望岩から（東～南～南西）

展望岩までのルート図と実際の時間である。赤字の小滝以降は偵察行のため時間がかっている。



・展望岩から横池まで

展望岩から魚屋道まで1分、横池までは数分の距離である。

展望岩から分岐まで戻り、元通りまっすぐ進むと魚屋道に合流する。魚屋道があまりにも整備されているので驚くが、振り返ると高座谷の分岐には、テープで印がつけられている。また、[荒地山→]の標識もある。この場所で荒地山の標識はあまりにも不見識だと思うが取り付けた人のこだわりがあるのだろう。



展望岩からの分岐



展望岩分岐



展望岩分岐から魚屋道へ



魚屋道との合流点

魚屋道に出たなら風吹岩へは左折(南方向)する。快適な坂を少し降りれば、すぐに横池の分岐に出る。標識に従って右折(西方向)すれば横池である。



風吹岩へは左(南方向)



横池分岐(道標あり)



横池は休憩には最良の場所



最後に、高座谷源頭部の地図を載せておく。図中の水場は宝寿水である。緊急時には便利であろう。

